

かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



「しかし、私は主にあつて喜び躍り、わが救いの神にあつて楽しもう。私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。」

(ハバクク書・三章十八〜十九節)

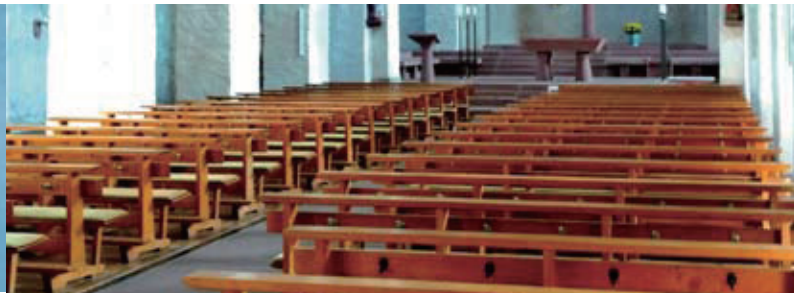
昨年の秋頃、中国の武漢で異常な肺炎が増えていくというニュースが流れました。ほとんどの人が遠い場所での出来事として関心を寄せなかったでしょう。しかし今はどうでしょうか。これまでの生活は様変わりして、生活の基盤は崩れ、なおかつ、私たち自身も感染して肺炎になり、死んでしまうかもしれないという恐れを持って毎日を送っています。主がハバククに、バビロン帝国の襲撃を告げた時も同じでした。あれよあれよという間にバビロンは強くなり、アッシリアに取って代わり、そして主が南ユダ王朝の罪をさばくために差し向けたのです。彼の目に飛び込んだできた光景は、自分の経験値では量ることができないことでした。そんな彼は主に訴えました。「どうしてですか？」と・・・すると主は応えてくださいました。「正しい人はその信仰によって生きる」(ハバクク二・四)。彼は神様に「どうして？」と訴えつつも、神様の御言葉と約束を信じ、困難の中にあつても神様を賛美し続けました。

コロナ禍の今、世界の政治家たちも、企業も、私たちも、どうしたら良いのか分からない状況です。礼拝は制限をかけられ、今までのようには行えない教会もあります。しかし、私たちが神様の愛と信仰から引き離すものは何もありません。ですから、私たちはこの困難の中にあつてもさらに神様に近づく者であり続けましょう。

(JBBF国内宣教委員会委員長・榎本昌博)

JBBF国内宣教委員会 新型コロナウイルス禍での 支援と基金

JBBF国内宣教委員会委員長・榎本昌博



きつかけは諸教会の申し出から！ 新型コロナウイルス対応支援基金設立

5月3日の日曜日の午後、立て続けに二本の電話が入りました。その内容はどちらも同じで、「新型コロナウイルス禍で経済的困難の中にある教会や先生方を支援したい。そのために教会員たちが献金を始めているので、国内宣教委員会で窓口を設けてほしい」というものでした。諸教会から、そのような声を寄せていただいたことをきっかけに早急に委員会で話し合い、「新型コロナウイルス対応支援基金」の開設を進めました。会計報告でお分かりになると思いますが、現在のところ、諸教会からの支援要請は思ったほどに多くはありません。ただ、この問題は始まったばかりであって、今は特別給付金などの国の支援も行われているので、長丁場になると考えています。

神学生への支援

そうした中で、神学生たちへの支援も必要ではないかという声があり、支援の範囲を神学生にも広げました。すると、さっそく神学校校長（代行）の斉藤秀文先生より問い合わせが入り、神学生の所属教会を通して三名の神学生への支援を実施いたしました。神学校のことになりましたが、コロナ

の影響で授業が遅れたことにより、今年度の卒業式と終業式が一ヶ月ほど先延ばしになりました。そのために、いつもは二ヶ月ほどある夏休みは一ヶ月に短縮してしまいました。多くの神学生が夏休みの期間にアルバイトをして、新学期に学校へ納めるお金を用意しますが、アルバイトを辞めさせられたり、見つけられなかったり、できたととしても十分なお金を用意できなくなると思われます。事実、普段からアルバイトしている神学生が雇い止めにあって、入学前に貯めた貯金が底をつくというケースもあります。

その他の支援と活動

- ① 休校中の食費補助
- ② ウイルス対策の補助
- ③ 教役者向け「かいたく誌」発行
- ④ アンケート

3月はじめ、委員会では休校中で自宅で過ごす教役者の小・中学生を対象に、食費の補助を実施いたしました。それは、給食が無くなり、自宅で三食をとり、食費がかさむようになったためと、アルバイトをしている夫人たちがアルバイトを減らさざるを得なくなったからです。この支援は3月～5月まで行いました。3月の終わり頃になると、共に集まる礼拝を中止して、インターネットを

使ったライブ配信や、CDを配布する教会が増えてきました。そこで4月半ばに、感染防止のための除菌剤やマスク等の購入、またはライブ配信導入のための費用、CDなどの録画録音メディアの購入費、その他新型コロナウイルス対策のために教会が必要とする事項のための補助を立ち上げました。こうした経済的な支援と平行して、今回の事態をお互いに共有し、また記録するために、教役者向けの「かいたく誌」の発行とアンケートを実施しました。

最後になりましたが、諸教会の皆様
の互いを愛し合うという御言葉の
実践に心より感謝いたします。



日本の諸教会のためにと中国から届いたマスク

新型コロナウイルス対応支援基金

(7月14日現在)

収入	
諸教会からの指定献金(14教会)	¥785,221
国内宣教委員会一般会計より	¥500,000
収入合計	¥1,285,221

現在支援基金残高 ¥1,065,221

支出	
教役者への支援(1件)	¥40,000
神学生への支援(3件)	¥180,000
支出合計	¥220,000

基金会計より支出

その他の関連補助

支出	
休校中食費補助(2件)	¥30,000
ウイルス対策の補助(4件)	¥40,000
支出合計	¥70,000

一般会計より支出

主の備えを感謝しつつ

アガペー聖書バプテスト教会 マイケル・バーゲット

2016年から新会堂について祈り求めるようになりました。当時の伝道所が狭過ぎたことから祈り始めました。その後、思いがけない主の備えもあり、いろいろな物件を検討しましたが、次々と戸が開ざされました。そのような中、2017年の春に国土交通省の宿舍転売の案内を見て、今の物件を総務省から購入することになりました。購入にあたり、三澤先生はじめ、多くの先生方のご協力をいただきましたことを感謝します。

2017年の夏から室内の解体工事を始めました。秋には改装工事の見積りを何社かに依頼しました。しかし、改装工事費用が3千万円ほどであり、予算上無理でしたので、自分たちで改装工事をすることにしました。2018年の夏まで工事が思うように進みませんでした。というのも契約した建築会社が全くと言っていいほど動かなかったのです。何回会社に訴えてもダメでした。

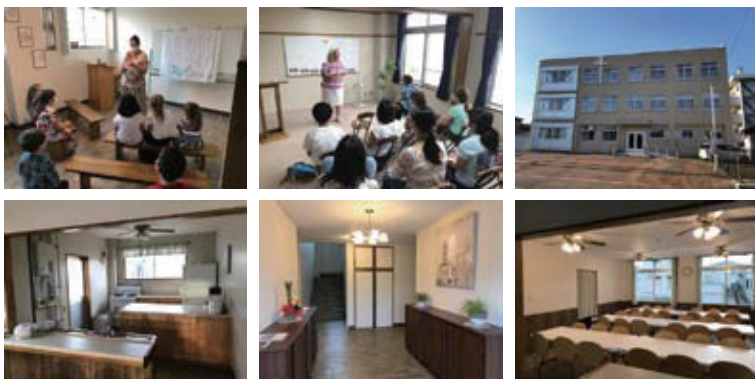
結局、2018年の秋に私たちの現場



の監督が首になつてから、やつと思つて工事が進むようになりました。左官、水回り、ガス、電気などの工事が進むことにより、私たち

も本格的に改装工事を進めることができました。2018年の秋から昨年の秋まで土日を除くほとんど毎日、改装工事に取り組んでいました。

昨年の9月末にやつと新会堂に引っ越すことができました。駐車場も会堂も広くなり、食堂や日曜学校のスペースもあります。主の素晴らしい備えを心から感謝します。この新会堂を通して、さらに長岡の多くの方々が主を信じ、主に従い主のご栄光となるよう祈っています。コロナで厳しい面もありますが、今年の9月21日に献堂式を計画しています。これまでの諸教会の先生方はじめ、兄弟姉妹の祈りを心から感謝します。引き続き、長岡での主のお働きのため、お祈りくださると幸いです。



かくも鮮やかな導きの御手

瀬戸内聖書バプテスト教会

澤 清嗣

しかしイエスは彼らにこう言われた。「ほかの町々にも、神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」

(ルカ四章四三節)

岡山伝道28年、ここに至り、不思議な主の慰めとお取り扱いの中、母教会の多くのご協力を得ながら、会堂建設に取り組みさせていただきました。紆余曲折しながら、産みの苦しみを得て、期待感や不安感を味わいつつも、人知をはるかに超えた御救いのご計画をお持ちの主が、ここまでお導きくださいました。

最初の祈りを聞かれた主

8年程前、交わりの中で何気なく語った《自分たちの会堂を持ちたい》という夢。祈りを合わせ、それからは「ビジョンの実現には会堂建設が必要である」と示され、何度も語り合いました。しかし



現実的な厳しさに直面し、前進しようとするばことごとく遮る問題課題が見えてきました。しり込みし、諦めと落胆の連続。「荒野は彼らを閉じ込めてしま

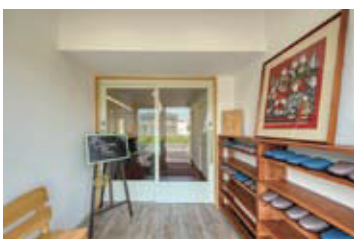
った」(出エジプト一四章三節)と見られるような状況。しかし主は、初めの祈りを聞いておられ、かくも鮮やかにその導きの御手を動かしてくださいました。やはり必要なのは神の時です。

すべては主のご摂理の中で

最初の小さなつぶやきと祈りから始まり、数十件に及ぶ物件探し、幾多の挫折みことばによる励ましと促し、土地との不思議な遭遇、母教会の賛同と協力、必要の備え、建設、献堂、そして現在に至るそのすべての工程とその瞬間に神様のご介入とご計画が絶え間なくあったとしか言いようがありません。「すべて主」なのです。

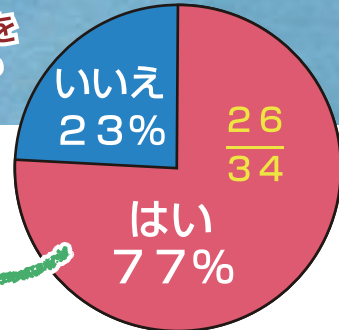
教会のない地域へ

教会名を改め、瀬戸内市開拓伝道の開始です。教会員、求道者の多くは瀬戸内市在住で、開拓初期、日曜学校の子どもの多くは現会堂のある邑久町から集っていました。それでいて、瀬戸内市には二つの教会しかありません。先導される主と共に神の国の福音を宣べ伝えることの恵みと使命を感謝いたします。



COVID-19 アンケート集計

一堂に会する礼拝を
自粛しましたか？



「6月末時点で再開した」
はい 26教会中24
いいえ 1
未回答 1

アンケート内容（90教会中34教会回答）

1. 一堂に会する礼拝を自粛しましたか？
はい=26教会 いいえ=8教会

2. 「1」で「はい」と答えた方、いつからどのような方法を取りましたか？

- ①方法：会堂での集会の休止を判断した教会は、インターネット、文書、CD、DVD を用いて各家庭で主日礼拝をおささげできるように導いた。利用したサービスはユーチューブが最多で、フェイスブックや Zoom を利用した教会もあった。ライブ配信ではなく、事前に録画・録音したデータを配信したりネット環境の無い方のために、郵送等で CD や DVD を配布、ファックスによる説教原稿の提供を行った。
- ②休止期間：休止期間の開始日は 3 月 29 日・4 月 5 日・4 月 12 日が最多。6 月末の時点でほとんどの教会が会堂での礼拝を再開。休止期間の終了日は 5 月 31 日が最多（ライブ配信を併用したり、二部制を行う教会もある）。
- ③礼拝以外の集会：教会学校や午後礼拝、祈禱会を配信された教会もある（礼拝以外の集会はライブではなく事前録画が多い）。教会学校のワークを作成して各家庭で親が子どもたちを教えられるようにした教会もある。

3. 「1」で「いいえ」と答えた方、その理由を教えてください。

- ①礼拝は不要不急ではなく信仰において最も大切な時であると考えたため。「平日、ほとんどの人が仕事に通勤しているのに、日曜の礼拝のみを自粛することが理解できなかった」との意見もあった。
- ②少人数の集まりであるため。 ③地域の感染状況が軽微であったため。

4. 「1」で「はい」と答えた方、6月末時点で礼拝堂での礼拝は再開していますか？

はい=26教会中24教会 いいえ=26教会中1教会

5. この期間で教えられたことは何ですか？

- ①緊急時は教会の一致と個々の信仰を強くすることを感じた。
- ②教派制でなく、各個教会が自治独立によって歩んでいるため、それぞれの教会の判断で決定できることは感謝でした。
- ③かいたく誌増刊号（教役者向け）で励ましを受け、さまざまな見方と聖書知識を与えられ、感謝でした。
- ④信仰があいまいな信者は離れてしまうので、今後の教会の在り方を考えさせられた。 ⑤礼拝やその他の教会活動ができることは当たり前ではなく、神の恵みであると感じた。 ⑥神の思いは私たちの思いと違うことや祈りの必要性を覚えた。 ⑦ライブ配信の便利さと危うさを感じた。 ⑧ウイルス騒ぎによって、終末の時代であることを認識させられた。 ⑨どのような試練の中でも、主が支えて下さることを確信することができた。



<http://jbbfhomeission.jpn.org/>

6. この期間に経験した恵みは何ですか？

- ①長く願っていた同時配信が開始できた。ネットを通して活動や伝道することができるようになった。
- ②ライブ配信が病気、遠隔地、仕事の都合で礼拝を守れない兄弟のために用いられていること。
- ③礼拝再開の日、久しぶりに集う皆さんが喜びの気持ちをもって再会していたこと。
- ④ステイ・ホーム期間中、コロナ以前よりも家で聖書を読む時間が増えたという教会員の証しを伺えたこと。
- ⑤教会兄弟の忠実さを改めて知れたこと（献金保管やお互いの連絡、教会への配慮など）。

7. 安全に集まるために工夫していることやアイデア、配慮していることは何ですか？

- ①基本的なこととして、マスク着用や消毒、手洗い、換気、三密を避けるなど多くの教会が実施している。讃美時以外は窓を開けて換気する、椅子の配置変更や着席可能な席の指定、間隔を空けての着席、1階と2階に分散、隣の部屋とつなげて会堂を広くするなど、三密を避ける工夫についての回答があった。
- ②礼拝プログラムに関しては、讃美の曲数や節を減らす、小声での讃美、会衆讃美・楽器演奏・聖歌隊等の中止など讃美についての回答が多かった。讃美を中止し、手話讃美や詩篇朗読に変更した教会もある。その他、交わり時間の短縮、主の晩餐の中止、献金袋から献金箱設置へ変更、プログラム全体の簡素化や2部礼拝実施、週報配布時に手袋着用といった回答があった。オンライン礼拝に関しては、集会再開後も継続・併用しているところが多かった。
- ③備品については、受付や講壇に透明なシート等を設置、換気用に換気扇や網戸を購入、フェイスシールドの利用、タオルをペーパータオルに変更、聖書・聖歌の貸し出しを停止、空気清浄機を購入といった回答が見られた。
- ④その他、主日に関するものとしては、食事会や午後集会の中止、弁当を用意して持ち帰る等の対応が見られた。
- ⑤来会に関しては、できる限り送迎する、高齢者を送迎する、微熱等体調不良な方の来会を遠慮してもらう、来会時に検温をする等の回答があった。 ⑥牧会的配慮として、集まらない方のケア、SNS を使った連絡網の整備との回答があった。その他、ウィルスに関する情報の精査に努めているとの回答があった。

8. 新しい取り組み等があったら教えてください。

動画配信等による礼拝と伝道の模索。子供のために動画を配信。平日に少人数の集まりや手芸等のサークルをはじめた。手作りマスク、次亜塩素酸水の配布を行った。